

表 2.14 クラック調査カルテ(クラック J11-6 その2)

水押試験結果		ボーリング調査結果																									
<p>水押しパターン</p> <p>手前</p> <p>中央</p> <p>奥</p>		<p>【密度】</p> <p>【平面配置】</p> <p>【打継目の状態】</p> <p>【断面区分】</p> <p>【断面配置】</p>																									
調査孔	<p>横継側 (J7+0.8)</p> <p>中央 (J7+4.25)</p> <p>アロクセンター (J7+7.5)</p>	<p>パターン 5</p> <p>パターン 4</p> <p>パターン 3</p>	<p>クラック幅の計測</p> <p>モニタリング調査結果</p> <p>ポアホールカメラ観察結果</p>																								
<p>凡例: ■ → 充水箇所</p> <p>■ → 漏水確認箇所</p> <p>→ → センサー設置箇所</p> <p>→ → 継目排水孔の漏水確認</p>		<p>クラック範囲と漏水経路の推定</p> <p>クラック区分②に相当し、打継間隔 78 日、クラック幅 0.1mm のクラックである。</p> <p>水膨張性の水平止水板が 2 列設置されている。</p> <p>クラック幅は 0.1mm、クラック長は 15m であった。</p> <p>J11 脇の①孔では、3.0m 削孔したが、クラックの終端を取ることができなかった。しかし、②、③孔でクラックの終端を捕らえることができたため、概ねクラックの範囲はジョイント脇で 4.0m 程度と推定される。</p> <p>水押試験結果では、いずれも表面部からのリークのみであり、継目排水孔からの漏水は認められなかった。</p> <p>継目充水試験では漏水が認められた箇所であり、漏水経路としては、横継目から止水板に沿う経路が考えられる。また、クラックが止水板の奥へ進展していることから、継目充水試験と水押試験の注入圧力の違いもあるため、水平打継面のクラックからの経路も考えられる。</p>																									
<p>モニタリング調査結果</p>		<p>ポアホールカメラ観察結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.</th> <th colspan="2">モニタリング調査 クラック幅 0.3mm 以上の範囲</th> <th colspan="2">ポアホール観察値 (クラック幅, mm, 距離, m)</th> </tr> <tr> <th>右岸側</th> <th>左岸側</th> <th>右岸側</th> <th>左岸側</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>0.20</td> <td>0.20</td> <td>無</td> <td>0.4~1.0</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>無</td> <td>0.10</td> <td>無</td> <td>無</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>無</td> <td>無</td> <td>無</td> <td>無</td> </tr> </tbody> </table>		No.	モニタリング調査 クラック幅 0.3mm 以上の範囲		ポアホール観察値 (クラック幅, mm, 距離, m)		右岸側	左岸側	右岸側	左岸側	①	0.20	0.20	無	0.4~1.0	②	無	0.10	無	無	③	無	無	無	無
No.	モニタリング調査 クラック幅 0.3mm 以上の範囲		ポアホール観察値 (クラック幅, mm, 距離, m)																								
	右岸側	左岸側	右岸側	左岸側																							
①	0.20	0.20	無	0.4~1.0																							
②	無	0.10	無	無																							
③	無	無	無	無																							